



日本組織内弁護士協会  
www.in-house.jpn.org

## ●インハウスローヤー座談会

### 第2回 インハウスローヤーに必要な資質とは？

2002年12月6日開催

#### <参加者>

梅田康宏（日本放送協会）：司会

中村比呂恵（日本IBM）

牧山嘉道（マイクロソフト・アジア・リミテッド）

本間正浩（GEエジソン生命）

※ この座談会での各参加者の発言内容は、あくまで参加者の個人的見解であって、それぞれの参加者の所属する企業・組織の見解ではありません。所属する企業・組織の見解は、直接当該企業・組織の広報にお尋ねください。

**梅田**：今回は年末ということで少々参加者が少ないですが、新たに会員になったマイクロソフトの牧山さんと、GEエジソン生命の本間さんに加わっていただきました。よろしくお願いします。さて、今回は、インハウスローヤーとして必要な資質についてお話しをしたいと思います。

**本間**：法律家としての能力は特にインハウスだからといって特別な能力が必要な訳ではない。後はそれぞれ、このホームページで行っているようなインハウスローヤーの類型ごとに違ってくるのではないのかな。

**中村**：能力とか資質というのは違うのかも知れないですけど、協調性というのは必要だと思います。同じ部署の中だけでなく、会社の他の部署の人と

も一緒に協力して仕事をやっていくのでその辺は大切ですね。

**梅田**：確かにそうですね。私の場合、それこそ番組制作の現場から放送行政まで本当に雑多な仕事をなんでもやっているの、様々な部署の方々と一緒に仕事をします。人間関係を作ることはスムーズに仕事をやるという上では極めて重要ですね。

**本間**：あとは、言うならば「クソ度胸」というヤツですね。我々インハウスの仕事というのは、いくつかの選択肢とそれぞれのリスクを示せば済むのではなく、実際にその中のどれを選択するかを決定しなくてはならない。これはどのタイプのインハウスでもほぼ共通していると思う。やはり、重要な決定を自らの責任で下すという決断力がない

インハウスマローヤー座談会  
第2回 インハウスマローヤーに必要な資質とは？

とつとまらないと思う。

**梅田**：私の場合、本間さんのようなゼネラルカウンセラーではないのでそういった決断を迫られることは多くはないですが、一定程度はありますね。それに事実上私が意見を言えば、それが決定になってしまうこともあります。金額的にそれほど大きくなくても、それで番組で使う映像が変わったりするので神経は使いますね。

**牧山**：我々のような外資系の企業だと、本社を説得したりするのも重要です。そういった点では、協調性や決断力と説得力が一緒に必要ですね。

**本間**：それは全くそのとおり。親会社は親会社の理論で色々言うてくるから、それをいかに説得して日本の法律では無理だと言うのかは大事です。うちの場合、私は日本法人のCEOの指示を受けますが、それとは別に親会社のゼネラルカウンセラーとのパイプもある。つまり会社間のパイプが2系統あるんですよ。私が何かをしようとした時に、CEOを説得するために親会社のゼネラルカウンセラーを先に説得したり、その逆もある。やりやすい方を選択するわけです。ぎりぎりのところでは、自分のクビをかけての決断ということもある。マイクロソフトなんかでもこういったことは多いんじゃないですか。

**牧山**：それはありますね。本社は本社の理論で色々言うてきますから。2系統のパイプのお話が出ましたが、うちはアジアの子会社間のリーガル部門の横の繋がりが強くて、リーガル部門の会議なども行われています。

**中村**：うちもそういった本社との関係はあります。ただ、私の場合お二人のような立場にないので、直接はそういった会社の大きな事項について決断をするということはありません。その辺りは梅田さんと同じでしょうか。

**本間**：確かに私の場合、契約書のドラフティングやチェックも一切やらない。最初からそういう約束

で今のポジションについていますし。今うちには私の下に2人日本人弁護士のリーガルがいるので、彼らは多少のドラフティングはするが、基本的に契約書は全て外注している。うちの場合インハウスの報酬はそれなりに高いので、そんなことをインハウスにやらせていたら高くついてしまう。

**牧山**：うちも私が直接チェックすることはほとんど無いですね。そんなことしていたら仕事になりません。ですから、外注する際にどこの事務所に出すかが重要ですね。「早い、うまい、安い」の3拍子揃ってればそれは勿論よいのだけれど、必ずしもそうはいかない。案件ごとに、いかに適切な事務所を選択するかが重要になってきますね。

**中村**：私はまだ弁護士になって3年目に入ったばかりで、自分で契約書のチェックなんかをしています。外注して出来上がった契約書を見ていると、これなら自分で作った方が早いかもしれないですね。どこに外注するかは重要だと思います。

**梅田**：外注の話は前回の座談会でも結構話されましたが、日本の企業は結構普段使っている事務所が決まっています。案件に関わらず、契約書のドラフティングなども同じ事務所に出してしまうことが多いように思われます。うちも多少そういうところがあります。

**本間**：それは良くないですね。外注する弁護士の選択というのは、我々リーガル部門に求められている最も重要なスキルでしょう。事案によって適切な事務所は違うし、逆に、それぞれの事案に応じたインハウスを全部抱えていたらとてもペイしないです。やはり弁護士の能力や事務所の能力を見極められるのは弁護士だけだと思うんです。うちの場合、日頃から事務所の能力や得意分野をチェックしています。例えば、弁護士の数が10人～15人程度で、小回りが利き、かつ現在伸びている事務所に小さな仕事をどんどん出すといった

インハウスローヤー座談会  
第2回 インハウスローヤーに必要な資質とは？

形で。そうやってそれぞれの事務所や弁護士の力を見極める。いい仕事をすればまた頼むこともあるし、そうでなければ頼まない。また、いくら事務所が良くても仕事するのは弁護士なのだから、事務所ではなく個々の弁護士に頼む。いわゆる大手の事務所を使うこともあります、よほどのことが無いと使わないようにしています。

**梅田**：その辺りは企業によっても事情が異なるのですが、うちの場合は、組織が分散型法務を採っているせいもあって、訴訟については法務部が選択しますが、それ以外のドラフティングなどについては、それぞれの部署がそれぞれ国内外の事務所に仕事を外注する傾向にあります。少なくとも現在は各部署にリーガルがいるわけではないので、必ずしもリーガルのチェックの上に外注がなされている訳ではありません。そもそも、私自身を含めて、今の法務部には日本だけでなく海外での事務所や弁護士を把握し見極めるだけの能力に欠けるとは思います。

**牧山**：それは企業毎の事情もあるのでしょうけど、基本的にはあまり好ましくないことだと思います。弁護士への依頼はリーガルで一括管理するべきでしょう。

**中村**：うちもそうです。弁護士への依頼はリーガルを通さないといけないようになってきました。

**本間**：そういう意味ではプラクティスローヤーとしての経験は大切ですね。梅田さんや中村さんには申し訳ないけれども、基本的にはプラクティスとしての経験を積んでいることはインハウスにとって大切だと思います。個々の業務遂行にとってそれまでの経験が生きてくるだけでなく、弁護士を選択するにしても、外の事務所の実状を知っていることは必要ですし、人脈という点でも重要です。私は日本、イギリス、インドと3カ国の法律事務所プラクティスの経験を積んできましたが、その時の経験や人脈は今の仕事に大変役立っています。

逆に言うと、梅田さんたちのように、いきなりインハウスに、それも誰もインハウスがいないところに入っていくというのはかなり度胸があると思いますね（笑）。

**梅田**：私も本来プラクティスの経験は必要だと思っています。入るときにはやはりその点で迷いましたし。いずれにしてもしばらくしたら一時的にせよ、プラクティスの経験を積むべきだとは思っています。ただ、今は私1人しかインハウスがいないので、もう少し経験を積んだインハウスを増やして、組織としてしっかりしてからでないと、一時的にしる外には出られないですね。

**牧山**：うちも、現在修習生から直接弁護士を雇うということはしていません。採用できる人数が限られているので、ある程度経験のある弁護士を取りたいという方針なのです。また、英語もできる方がよいですね。留学や海外の事務所での勤務経験は、必ずしも要件ではありませんが、もちろん、考慮する要素にはなりますね。

**梅田**：私も少しでもそういった面での経験不足を補おうと、弁護士会の業務改革委員会の委員になったり、国選弁護を引き受けたりと自分なりの努力はしています。ステップバイステップというところでしょうか。

**本間**：弁護士会と言えば、企業内弁護士の完全解禁に関して、企業と企業内弁護士との意見が相反したらどうするのかという意見が出ているらしいが、あれはおかしい。そもそもインハウスは企業組織の一部であるのだから、「企業と意見が齟齬する」ということはあり得ない。上司や社長と意見が齟齬することはあるかも知れないが、それは企業にとってどちらが法的・倫理的に正しいかを考えれば良いのであって、「企業と意見が齟齬する」ということは、実際上もあり得ない。外部の弁護士とインハウスを比較してみても、ある行為について単に意見を述べるのと、実際に自分で手を下すの

インハウスローヤー座談会  
第2回 インハウスローヤーに必要な資質とは？

では、違法行為を避けようとする意識として後者の方が強いことは明らかでしょう。

**梅田**：本当にそうですね。さて、少々話が逸れてきましたので、テーマを決めての座談会としては、ここで終了にしたいと思います。前回は日系企業の方が多かったのに比べて今回は、外資系の、それもそれなりの立場の方がお二人参加されたので、議論に厚みが出たように思います。うちも含めて日系の企業と外資系企業の間では、まだまだリーガルそのものに対する認識にかなりの隔りがあるようですね。それでは、みなさんお疲れ様でした。

###